

大学での教育研究を活かした 知的障害者の学びの意義

～海外の事例を踏まえて～

もっと学びたい・大学に行きたい ゆっくり学びたい

知的障害者のための教育コンテンツを活用した学習プログラムの
開発シンポジウム

令和7年1月27日

広瀬洋子（放送大学特任教授）

日本の知的障害者の中等教育後の学びの場

特別支援学校高等部卒後の大学・短大・高等部専攻科（全国に9校）・
専門学校への進学率は約0.5%（2021年(令和3)）

- 知的障害者を対象とした特別支援学校高等部専攻科
（上記0.5%のうち8割）
- 大学の公開講座／オープンカレッジ
- NPO法人の大学

課題：

- ✓ 一部の教員や実践者による属人的取組み。低い認知度
- ✓ ノウハウの継承できない。
- ✓ 全学的取組みではない。
- ✓ 人と予算が消えれば、消滅してしまう…。

その他に：

- 障害者総合支援法「自立訓練事業(2年)」を使い「福祉型専攻科」

米国における知的障害者の高等教育

全米で300以上の大学で知的障害学生を受け入れている。

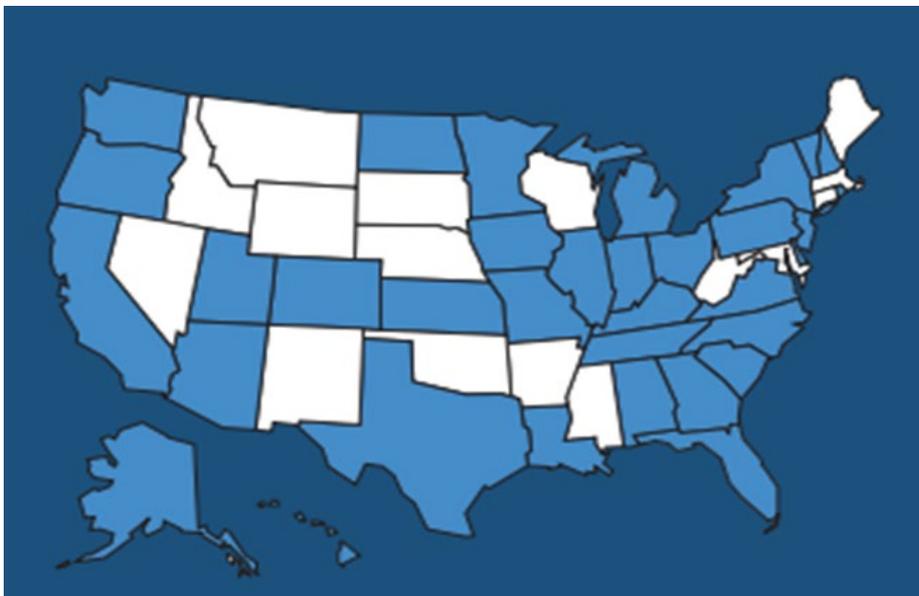
Think College（知的障害学生のインクルーシブな高等教育を目指す全国組織。ボストンに拠点有り）

- 2010年から連邦予算でモデルプログラムの研究・実践
- 各地の大学等が申請⇒選抜⇒助成金⇒実践⇒評価⇒ノウハウ蓄積
- 併設されたナショナルコーディネーターセンターで評価・調整





TPSID：知的障害学生の移行及び中等教育後プログラム



2010年～現在まで：34州で60団体が活動。

- ・ 134プログラムに約5,000人が参加、約64,000科目を受講
内29,000科目以上が大学レベルのインクルーシブ・コース。
それ以外は、知的障害学生に特化した特別コース

経験・リソースが蓄積されるポータルサイト

<https://thinkcollege.net/>

Think Collegeの支援プログラム

マサチューセッツ大学ボストン校・マサソイトコミュニティカレッジ・マサチューセッツ芸術カレッジ

1. 支援実施の実際

- 支援の最終目標は就業
- 特別クラスを作らず、すべてのクラスをインクルーシブに
- コーチに教わるよりも、自分でコーチに指示を出せるように
- 学生の将来の目標・興味に合わせてコースを調整
- 学生たちが自主的に行動できるようにサポート
- 支援担当者は、講師に事前にどんな支援が必要かを伝える
- ほとんどは学位ではなく、履修証明書などを発行
(例：「幼児教育補佐の証明書」「職業教育の履修証明書」)
- Think Collegeの支援の他に、知的障害学生の64%が各大学「障害学生支援室」の支援も利用している。

2. 支援体制

➤ プログラム・コーディネーター：

専門的なスキルを身につけるようなトレーニングが提供されている。

➤ 教育コーチ：

ノートテイキングや授業のサポート、友人関係構築、キャンパス活動参加等への支援を行う。

➤ チューター：

学生・大学教員。専門知識は問わず。トレーニングあり。

➤ ピアメンター：

一般学生。ランチ・おしゃべり・スポーツ等を一緒に楽しむ。
TPSIDの92%でピアメンター制度有り。

2. 支援体制

➤ インターンシップ:

キャンパス内カフェ・図書館・食料配給所等で就業の準備

➤ 卒業後の支援:

高校から大学、社会人向けエージェントと、継続的支援



U-ACCESS Food Pantry

Do you know we have a food pantry?
Do you know we have students who are hungry?
Do you know you can access to the food pantry as a student of UMass Boston?
Do you know you can help?

Anyone requiring disability-related accommodations, including dietary accommodations, should visit www.ada.umb.edu

For more information, contact u-access@umb.edu or call us at 617-287-3195.

ハワイ大学CDS 知的障害関連プロジェクト Postsecondary Support Project (PSP)

- 助成金：TPSID・職業リハビリテーションハワイ支部・州保健省発達障害部門
ハワイ州の他大学やコミュニティ・カレッジをカバーしている。
- 中等教育から大学に移行する継続的な学びの機会を提供
- 学生の各学期の目標を達成できるように(本人を中心に据えた計画)、質の高





1. SELF-AREA : 自己決定モデルの実践

The **KEYS** to
SELF
DETERMINATION



Presented by UH-CDS and DDD (11.09.22)

SELF-
A
ADVOCACY



SELF
AREA

GOAL
SETTING



SELF-
A
WARENESS



PROBLEM
SOLVING



SELF-
R
EGULATION



DECISION
MAKING



SELF-
E
FFICACY



A
SELF
DETERMINED
LIFE!



Training for individuals,
families, educators, & professionals.

✓ SELF AWARENESS (自己認識)

自分の価値観、好み、長所、葛藤を知り、自分の行動が他人にどのような影響を与えるのか理解する。

✓ SELF REGULATION (自己規制)

自分の目標達成のために、自分自身、考え方、行動を管理する。

✓ SELF EFFICACY (自己効力感)

挑戦しつづけることで、自信がつき、さらに挑戦する力がわく

✓ SELF ADVOCACY (自己権利擁護)

自分のために自分で考えて、自分に必要な支援を要求する力

自己決定スキルがなぜ重要なのか

✓ GOAL SETTING（目標設定）：

自己決定スキルは、目標を明確にして達成するための計画を立てるのに役立つ。

✓ PROBLEM SOLVING（問題解決）：

自己決定スキルは、自分の人生で直面する課題を解決するための計画を立てるのに役立つ。

✓ DECISION MAKING（意思決定）：

自己決定スキルは、選択肢の一つ一つのプラスとマイナスを考え、自分にとって最善の選択をする力を与えてくれる。

ハワイ大学CDSの支援の考え方

- ・ インクルーシブ教育とは「フル・インクルージョン」のみ、知的障害学生のみを集めた授業はしない。
- ・ 各学生のゴールは違う。成功のレベルはそれぞれ。
学期末までに読み書きができれば成功という学生もいる。
- ・ **失敗する経験も大事**。無理だと思っても、あえてやらせることもある。失敗から学ぶ手助けは支援者の役割である。試験に何度も落ちることも。

支援体制

➤ 教育コーチ：

障害学生との人間関係の構築やニーズに対応し調整する。
一番大切なのは、学生本人にすべてのことに関して決定させること。

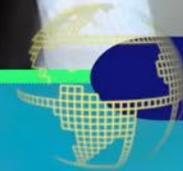
➤独自の認定証 (Certificate of Academic and Career Studies)の発行：学士号や資格の取得が難しい学生であっても、学習の目標となる。

➤ 現場でのトレーニング：

特定の事例を想定したトレーニングではなく実際の現場で

➤ ガイドノート (guided notes)

空欄があるノートで、講義を聞きながら空欄を埋めていく。
要点をつかみやすくするノートを作っていく。



アメリカ：ハワイ州

韓国 ナザレ大学 リハビリテーション自立学科学習プロジェクト

キリスト教系私立大学、学生数5000人、リハビリテーション・介護に特化した大学
全国で最も障害学生が多い大学



学位を授与

一学年 30名程度
入学倍率 4 ~ 5 倍、
年間 80 ~ 90 万円の学費
就職率 90% 以上、
大企業の主に特例子会社

支援実施の考え方

知的・発達障害学生の課題：

ストレス耐性・自己管理能力が低い、体力不足

対人関係が苦手

- ・ 成長の鍵は会話・友達作り・グループ活動
- ・ 運動で体力を向上させ、ストレスを乗り越える力
- ・ 障害学生を個別化したサポートで、就職への道を開く。

- ・ 学年が上がるごとに、**段階的にインクルーシブ学習へ**
- ・ **寄宿舎では、一般学生と同じ部屋**
- ・ **サークル活動**は他の学生と共に
- ・ **：合唱部・バンド部・読書部・体育部・ダンス部・デザイン**
- ・ 年一度の学術祭で活動成果を発表。



支援体制

➤ 習慣形成プログラム：

カカオトークに日記（反省したこと、褒められたこと、明日の準備）を毎日書いて提出することにより、自己管理能力が高まる。また、毎日縄跳びを行い、敏捷性や筋力を向上させる。

➤ 社会適応のプログラム：

知的・発達障害学生の弱点である自己開発スキル、自己決定スキル、環境適応スキル、団体活動での協調性・ブイログ(Video とBlog)活動等で補完する。

➤ 学習・実習・就職のネットワークシステム：

学習・実習・就職を継続的形で。現場実習は、適性検査・職業の探索・希望する職業の選択、職務技術訓練の確立となる。

卒業後の繋がり・保護者の繋がり

スマートフォンのカカオトークに卒業年度ごとのルーム設置し、情報交換。保護者達もBANDというアプリで情報交換

神戸大学 学ぶ楽しみ発見プログラム KUPI (Kobe University Program for Inclusion)

1. KUPIの実践を通して追求したい問い

- 大学教育としてどのようなプログラム内容が効果的か
- 大学教育がKUPI 学生や家族に与える効果
- 大学教育に対する効果：社会的責任や教職員の意識
- プログラム運営のための外的条件とは何か
運営体制やコスト・支援者の専門性や育成
外部機関との連携・学内資源の活用、法制度の活用等

2. プログラムの構成

➤火曜日「障害共生教育論」

神戸大学国際人間科学部の授業「社会教育課題研究（障害共生教育論）」として実施。一般学生とKUPI学生が共に学ぶ（一般学生は2単位科目として履修）。テーマはSDGsやジェンダーなど、ディスカッションあり。

➤水曜日「よりよく生きるための科学と文化」

教育学、社会学、哲学、芸術、自然科学、心理学を専門とする教員による1講師2回連続の授業。先生方は、通常の授業の内容をかみ砕いて6倍の時間をかけて教えるようにしている。

➤金曜日「話し合う！やってみる！」

興味のあることを出し合って話し合い、様々なことを体験する。メンター学生が中心となり、KUPI学生とメンター学生にとっての大学での学びは何かという問いと向き合い、考え、活動内容を作っていく。



オンライン教育・映像コンテンツ利用について

- ・ 米国調査から
- ・ 知的障害の学生は**オンライン授業はあまり好まない**。
直接質問ができるインタラクティブな対面授業を好む。
- ・ **オンライン授業の組み立て方を構造化すると学習が楽しめる**。
授業のパターン化：YouTubeで指示・Googleドキュメントで課題提出
段階的な指示・学生が空欄を埋めるガイドノートの利用

韓国ナザレ大学

オンライン授業は効果がでない。**知的障害の学生はパソコン好き**。
仮想現実や拡張現実を活用したオンライン教育が成功する可能性
は高いので、最近、高額なシステムを整備中。

まとめ

放送大学が知的障害の高等教育に寄与できること

- 大学やその他の社会教育施設で知的障害者の学びを始めるために
- 何をどうやって教えたなら良いのか？
- 多様なコンテンツのモデル例を提示し、
- 全国での取り組みの現場からコンテンツ案を収集
- コンテンツ制作のサポート体制(専門家による教授法・学習法・制作方法)を構築。
- ノウハウの共有・継承・情報交換の場としてポータルサイトを作り、スタートアップを支援
- Think Collegeのポータルサイトのような
- <https://thinkcollege.net/>